

Alandroal

について

Alandroal

アランドラル

グアディアナ川に隣接し、国境に近いアランドロアルは、アルケバ湖畔の静かで穏やかな日々を過ごせる場所である。

名前の由来は、この土地に豊富に生えていた低木の一種である「アランドロ」または「アロエンドロ」（キョウチクトウ）と呼ばれる植物にあると言われている。1298年、ポルトガル王デニスの時代に、アヴィスの軍事命令によって町が建設された。

アランドロアル城（Castelo de Alandroal）、**テレナ城**（Castelo de Terena）、**ジュロメンハ要塞**（Fortaleza de Juromenha）は、何世紀にもわたって、特に17th 世紀のポルトガル独立回復戦争において重要な防衛の三角形を形成していた。この地域は、ヴィラ・ヴィソーザに公爵邸を構えていた王家にとって、非常に重要な地域であった。カルロス王がこの地方での狩猟を好み、休憩にアランドロアルを選んだことはよく知られている。



アランドロアル航海ステーション（Estação Náutica do Alandroal）

アランドロアル・ノーティカル・ステーションは、アゼンハス・デル・レイ・リバー・ビーチの一部で、ホルムオークやコルク樫の木が生い茂る川辺の原風景の中でリラックスし、地元の食材を使った最高のアレンテージョ料理を地元のレストランで味わうことができます。川では、ボート・トリップ、スモール・クルーズ、セーリング、スタンド・アップ・パドル、フィッシングを楽しむことができ、対岸にあるスペインのリバー・ビーチ、チェレス（川幅50メートル）までカヤックで渡ることもできる。川沿いの散策だけでなく、ヨガや太極拳のセッションもある。ピクニック・パークは、ピクニックやグアディアナ河畔でのんびり過ごす午後に最適な場所だ。また、ユネスコの星空保護区に指定されているため、星空観察もできる。



アランドロールの散歩道

国境地帯であるアランドロールには、EUがもたらした物資の自由な移動以前の密輸業者の話もある。コーヒー、タバコ、車の部品、香水などが密かに取引されていたという。アランドロールには、密輸業者たちが通った道のほかにも、町やテレナ、フェレイラ村、あるいは地元遺産のひとつであるペドラ・アルサーダ（Pedra

Alçada）を見学するための散歩道がいくつかある。ペドラ・アルサーダは

、高さ10メートル、直径6メートルの堂々たる巨石モニュメントで、この自治体で最大級のもので、道沿いには、ホルムオークやコルク樫の木で作られた伝統的な炭焼き窯など、生活様式や地元の習慣、伝統の証が残されている。その匂いに騙されてはいけない。



テレナとジュロメンハ

その近くにあるジュロメンハ要塞は一見の価値がある。グアディアナ川の見晴らしが素晴らしく、16th 世紀の要塞である。

テレナ城は、ジル・マルティンスとその妻マリア・ジョアンに町の勅許が下りた後、13th 世紀に建設されたのではないかと考えられている。しかし、公式な資料では、ドゥニ王とポルトガル王ヨハネ1世が町をアヴィス騎士団に統合した際に建設されたとされている。マヌエル朝時代には、正面入り口の門からわかるように改築が行われ、1755年の地震の影響を受けた。またテレナには、城壁と鐘楼を持つ不思議な要塞礼拝堂、ポア・ノヴァ礼拝堂 (Capela da Boa-Nova) またはポア・ノヴァ聖母被昇天聖堂 (Santuário de Nossa Senhora da Assunção da Boa Nova) がある。



テレナから4kmのところにあるエンドヴェリコ遺跡には、ローシャ・ダ・ミーナとして知られる古代の異教の聖域があり、後にローマ人によって1st 世紀に開拓された。今でも、生贄が捧げられた場所や、岩に掘られた中世の墓を見ることができる。サン・ミゲルの丘の上、ルーチェフェシットの小川の近くにある。

遺跡の重要性をより深

く理解するには、ガイドツアーに参加するとよい。遺跡の神聖な雰囲気を感じるには、**ルーチェフェシット・ダム** (Barragem de Lucefécit)

が欠かせない。ルーチェフェシットという名前は、異教徒のルシファー信仰に由来すると言われ、後にキリスト教によって悪魔と結び付けられるようになった。5th 世紀、この異教寺院は、近くに聖ミカエル礼拝堂 (Capela de São Miguel) が建てられたことにより、キリスト教化された。ダムでは、水浴び、カヌー、ピクニック、典型的なアレンテージョの風景の中を散策することができる。また、気球に乗ってダムの貯水池やコルク樫の森、遠くにアルケバ湖の景色を楽しむこともできる。



アレンテージョのどの町でも、ガストロノミーも注目の的だ。特筆すべきは、川で獲れる魚料理、地元の特産品である黒豚肉入りのひよこ豆のスープ、そして地元の焼き肉で、確かに異なる風味を醸し出している（メルトレンガ牛、パタ・ネグラどんぐり豚、メリノ種の山羊や羊）。黒豚の肉やソーセージに加え、子羊のシチューも特筆に値する。デザートには、ポロ・ランソソ（スパゲッティ・カボチャのジャムと卵で作った地元のケーキ）、パン・デ・ラーラ（通常、卵、砂糖、積層アーモンド、スパゲッティ・カボチャで作る典型的なケーキ）、エンチャカーダ（卵とアーモンドのデザート）、ポロ・ポドレ（オリーブオイルのケーキ）、アレンテージョ・ポピラス（リング状のクッキー）などがある。

7月には、カ

タツムリ、大きなカタツムリ、ザリガニなど、夏の午後のおやつとして親しまれている貝をテーマにした「貝殻の外祭り（Festival Fora da Casca）」が開催される。9月の最初の週末には、聖母マリアにちなんだ9月祭（Festa de Setembro）

）が開催され、多くの人々が町を訪れます。音楽、闘牛、牛追い、伝統的な行列、守護聖人に捧げるミサなどが行われる。この祭りに関連して、初日に青少年祭（Festival da Juventude）が行われる。

アランドロアルは、エルヴァス、ヴィラ・ヴィソーザ、レゲンゴス・デ・モンサラス、レドンドの間の休憩地点として、またこの地方の建築・文化遺産を訪れる出発点として、一年中いつでも利用できる。